フィールド風（現場）からの

439

宮田守男

誰もが「おひたし」の心掛けを持ち続けることが求められる

4月中旬を過ぎても一時的な冷え込みが気になる。桜の咲くころの一時的な冷え込みを表す春の季語「花冷え」の言葉の意味を痛感する毎日だ。

演芸人として史上初の文化勲章受章者となった故・三代目桂米朝さんは、八十八（やそはち）の俳号を持ち、春の句が多い。人恋しい気分と上品な色気がにじむと、新潮社の「波」の連載「掌のうた」で紹介された句「春の雪　誰かに電話したくなり」。春でありながら、まるで春と異なる心情や場面を、誰かに伝えたいと思うのは、今も昔も変わらないのだろうか。

野沢菜の収穫を一部控え目にして、ひと冬過ごし、春収穫する「菜の花」。おひたしやパスタなどの具として家族一緒に楽しんで食べている。実は、菜の花という植物名はない。ナタネハクサイなどの多種多様なアブラナ科の植物の総称だ。春を彩る景観植物や菜種油の活用ばかりでなく、近年では、放射能の除染効果も期待できることが注目されている。

この時期、一般観光に適する里の観光資源が少ない大北地域。菜の花を活かした地域づくりの話題が、全国から伝わってくる。菜の花を活かした、資源循環型の観光資源発掘も楽しいのではないだろうか。単なる見学観光資源では無く学習旅行や子育て家族に、社会的課題を共に学ぶ視点の組立には、地域に住む私たち自身、体験や学びを求められているのだろう。

コロナ禍で、自宅勤務が増え部下から上司に向けた報告や連絡などの対応に関心が持たれている。ビジネスマナーの「報連相（ほうれんそう）」は、仕事をスムーズに進めることが欠かせない「報告」。「連絡」・「相談」、組織の血液とも言われている。「ほうれんそう」を受けた上司の側が心掛けるべき行動として、経済誌などで「おひたし」の言葉で上司の対応をうながしている。「お」は怒らない。相手を思って注意をしても、感情的にはなってはいけない。「ひ」は頭越しに否定しない。若手の意見を聞いたうえで自分の意見を伝える。「た」は助ける。いきなり手を貸すのではなく、悩みや困った事があった場合に適切にサポートする。「し」は的確に指示する。さまざまな場面で「嫌がらせ・いじめ」などハラスメントは種類が多岐に渡るが、人間関係に必要な知識は身に付け、加害者にならない事が求められている。（信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上）

菜の花畑、収穫された菜の花。
料理方法も豊富だ